

第 22 回福島問題研究会議事録（ダイジェスト版）

日時：平成 29 年 2 月 28 日（火）14:30～17:20

場所：化学工学会応接室

出席者(敬称略)：小林、橋本、中尾、松井、横堀、郷(文責)

議事録：

(1) 前回議事録確認

特になし。

(2) 関連情報提供

①以下の関連資料について意見交換した。

・日本技術士会防災支援委員会講演会（2/9）

「如何に事故対応が行なわれたか（班目）」（橋本入手資料）

・班目／共同通信インタビューメモ（2014 年）（郷配布資料）

意見：当時の原子力安全委員会のトップの立場にあった人の反省，意見であり，これが今はどう反映されているのだろうか？など釈然としない印象がある。

(3) 今後の予定や研究会の進め方についての意見交換

①2 月 7 日の化学工学会の第 13 回福島原発事故対策検討委員会（小林メモより）にて，今後の方向について「福島原発事故対策検討委員会」を解散し、研究会として継続する事でまとめていく。4 月 4 日の理事会で承認を得る。」となった。

（郷追記：3 月 7 日の学会シンポジウムでも，長谷部委員長より，上記の旨が発表された。学会の方は，この委員会の実質的機能が皆無になることではなく，外部機関との連携を含む研究会など形に変えて出直しとなろう。）

②上記を受けて，また SCE・Net 総会での報告（福島問題研究会の活動報告として）の検討も含めて，本研究会の今後の活動をどうするかについて議論した。

結論的には，当研究会として研究価値があるものならば，積極的にやるという参加態度を続けていこうということ。SCE・Net 内では，今まで通り継続する。まとめ役（横堀）も継続する。

③H29 年度の具体的アクションの例

楢葉の見学，# 柏崎原発見学，# 1 F の再見学，

ロボットとドローンの繋ぎを調査，検討，

AI と化工操作の連携の調査，検討，

デブリの取り出しについて、どこまで我々ができるだろうかを調査する。

例えば，障害となる例で；セメント，コンクリートと放射線の反応，劣化はどうなっているのか？この知識が冷静に必要だろう。

④議論中に出た意見など

化工会の中での(従来の委員会に替わって)研究会設置に係わる規約は？

その場合、本部の研究会と SCE-Net 研究会はどう繋がるのか？両者の関係は？

学協会連携（は続くだろう）の化工会の代打的受け皿か？

SCE-Net として、自由にはできるが、やはり大きな原子力技術の情報の流れの中にいることが好ましいだろう。

我々は、受け身になる必要はない。前向きに考えよう。

(4) 化学工学会年会（2017.3.7）シンポジウム対応，横堀資料の修正
プレゼン資料を修正し，3月7日発表されたので，細かな議事録は省略する。

(5) その他

次回日程：3月30日。

以上」